

ゴミをあらさず住みやすい町へ

木安丘小学校 6年 梅森・三原・廣田・大久保

1. 提案のきっかけ

生活の中でかならずでてくるゴミ。ゴミをゴミステーションに投ると、カラスがゴミを荒らし、道足各などが通れなくなり地域の人がかとても困っている。実際日明環境センターに電話をすると、北九州市内の98%くらいのゴミステーションはきれいに使われている。しかし、残りの2%のゴミステーションはゴミが荒らされて困っているという。私の実際に登下校途中にあるゴミステーションはよくカラスからあらされている。この現状をどうにかできないかと考えたことが提案のきっかけとなった。

以上のことから私たちのグループでは次の2点を提案する。

(1) ゴミステーションを箱型にする。
 ぼくの家近くのゴミステーションはネット型であるが、
 それだとカラスやねこにあらされる。だからゴミステーション
 をネット型から箱型にすることを提案する。
 田明環境センターの人に聞いたところ「ネット型よりも箱型の
 ほうがあら土木にくい」といらていた。そこでいつも昔ながらの
 ぼくの家ちかくのゴミステーションを箱型にする土木いた
 状態を保てると思った。

カラス
 は
 ゴミステーション



家の近く
 の
 ゴミステーション

木箱型
 カラス
 土木



(2)生ゴミを紙などで包む

北九州市で2%の人が困っているゴミステーションがある地域では文才策があまりできていないと考えた。そこで、他の土地土域の対策をまねてみるのはどうだろうか。例えば、名古屋市では、生ゴミや残飯を減らそうと土地土域に呼びかけたり、カラスは視覚で食べ物を探すため、生ゴミを新聞紙や紙などで包んでから捨てたりおなどの取り組みを行っている。このような取り組みを行うことでカラスにゴミをあらされなくなる。さらに、毎日たまっていく裏紙を処分することができると一石二鳥になると考える。

このように、2つの提案でカラスで困っている地域のごみ袋がカラスにあらされるのを防ぐことができる。さらに、みんなが意識してゴミをゴミステーションにすててくれるようになると思う。